



県立虎御前山教育キャンプ場の見晴台から見た虎御前山(鉄塔付近が伝滝川一益陣地跡)。遠くに小谷山を望む。

小谷城攻防戦で 信長軍の家臣が布陣

虎御前山 ― この名前は、長浜市虎姫地域の地名の由来となった伝説「世々開長者と虎御前姫」にちなむ。標高約230mの小さな独立丘陵で、キャンプ場などのレクリエーション施設が充実している。

山の地形を見てみると、尾根は南北に長く、まるで大地に龍が伏せているかのような姿だ。その目と鼻の先に悲劇の戦国武将・浅井長政の居城・小谷城があった。龍の背で睨みをきかせていたのは、天下布武の野望を抱く織田信長 ―。

元龜元年(1570年)、同盟関係にあった信長に反旗を翻した長政は、姉川合戦に敗れた後に小谷城に籠城、信長軍とこの地で約3年にわたる長い攻防が続く。信長軍が持久戦に備えて砦を構えたのが最前線に位置する虎御前山であった。

築城は元龜3年(1572年)7月からはじま

り、8月には完成。『信長公記』の記述によれば大規模な普請だったようだ。ここに信長軍の名だたる家臣たちが布陣。城番には木下秀吉(のちの豊臣秀吉)が任命された。それから1年後、小谷城は落城し、浅井氏は滅亡。虎御前山の砦はその役割を終え、廃城となった。小谷城攻略のための砦として短命ではあったが、歴史的なターニングポイントにあたる史跡として、ぜひ訪ねてみたい城跡である。

名将たちの陣をめぐる 戦国のドラマを体感

現在、尾根上の各陣跡をめぐる、南北に縦断できるように、約2kmの虎御前山ハイキングコースが整備されている。下草などが美しく刈り払われて、遺構の状態が確認しやすくなった。

虎御前山の南尾根は「八相山」とも呼ばれ、その南麓にある矢合神社の参道が登

〈アクセス〉

●JR虎姫駅から矢合神社参道入口まで徒歩約15分。
北麓の登り口からJR河毛駅まで徒歩約15分。
矢合神社参道入口に駐車場あり。

〈観光に関するお問い合わせ〉

■(社)長浜観光協会 TEL.0749-62-4111



陣地跡と古墳群から 歴史の風景を眺める

県立虎御前山教育キャンプ場のテントサイトの丘にある伝蜂屋頼隆陣地跡の付近には北山古墳があった。発掘調査により、竪穴式石室から銅鏡、短甲(たんこう)、鉄剣などが出土し、埋葬主体部の形態や副葬品などから、古墳時代後期(5世紀後半)に造られたものと考えられている。被葬者はこの地域を支配していた有力者だろうか。この他にも伝滝川一益陣地跡や伝柴田勝家陣地跡に古墳群があり、織田信長はこれらの墳丘を利用していくつもの砦を築いたものと考えられる。時代とともに権力者が移ろうことで、歴史の風景が幾層にも重なって見えてくるのも面白い。



北山古墳のあった伝蜂屋頼隆陣地跡付近。



① 伝滝川一益陣地跡・伝堀秀政陣地跡

鉄塔下の滝川一益陣地跡と伝わる付近には古墳群があり、雑木林の奥に三等三角点がある。ここからハイキングコースの奥に入ると堀切、横堀、竪堀などの遺構があり、伝堀秀政陣地跡に続く、一段高い曲輪のまわりに「犬走り」と呼ばれる細長い通路が設けられている。



(左)伝滝川一益陣地跡の付近は古墳群。(右)伝堀秀政陣地跡に設けられた犬走り。

② 伝織田信長陣地跡



(上)頂上にある伝織田信長陣地跡の中心曲輪。
(右)中心曲輪の南側にある長柄形虎口。

虎御前山の頂上に位置する伝織田信長陣地跡はいくつもの曲輪が段状に連なっている。中心曲輪の南側に長柄形虎口(こぐち)を設け、北、東、西は切り立った崖で防御。南東の尾根に信長先兵陣地跡と伝わる曲輪があり、北側には「信長馬場」と記された細長い曲輪がある。



③ 伝木下秀吉陣地跡



小谷山に最も近い北端の曲輪群は、木下秀吉の陣地跡と伝えられている。ひととき高い曲輪のまわりに土塁を築いた帯曲輪が配され、「かざし堀」と記された細長い窪みも確認できる。侵入した敵の横移動を阻止する仕掛けらしい。北へ抜ける山道にも堀切と土塁の遺構があり、砦の防御性の高さがうかがえる。
(左)木下秀吉陣地跡と伝えられる曲輪。(右)帯曲輪の一部を一段低く掘り下げた「かざし堀」。